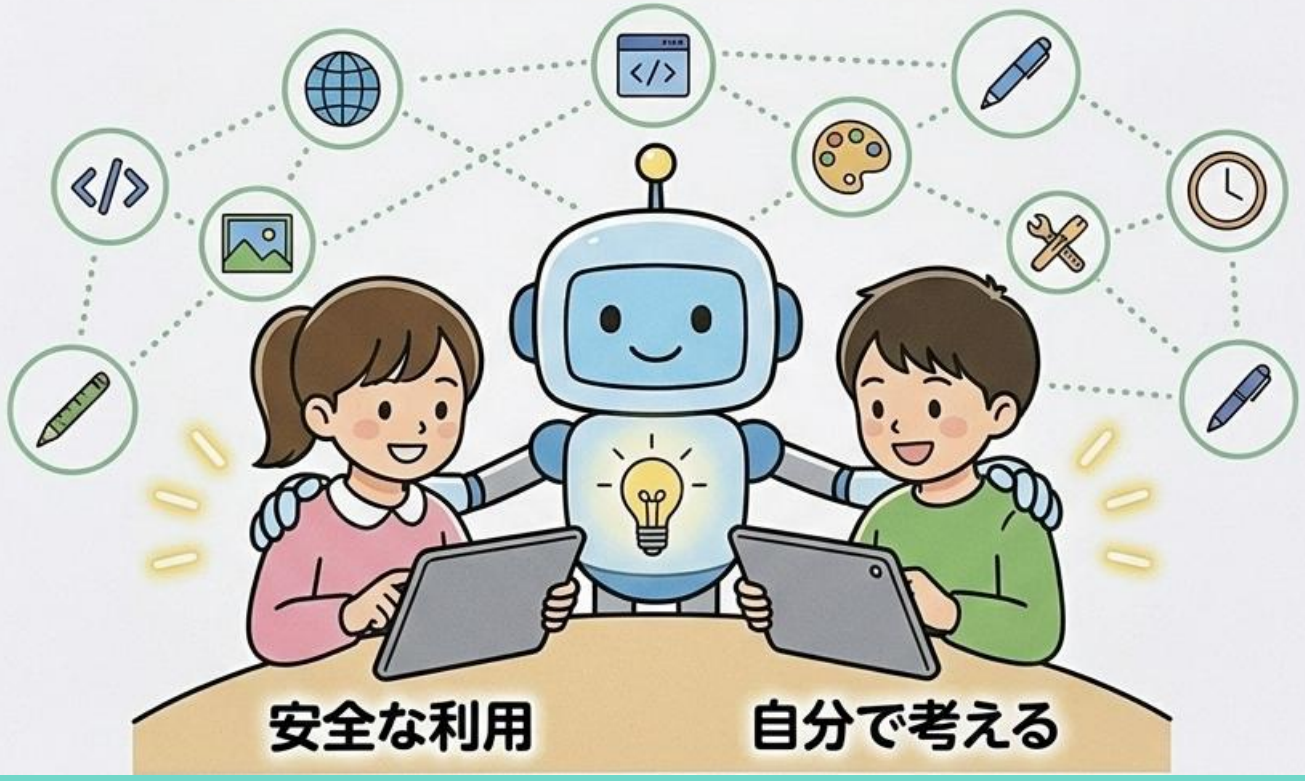
生成AIの利用ルール

正しく・安全に・かしこく使う！
子どもの学びを広げるヒント



保護者のみなさまへ

AI時代を生きる子どもたちへ、正しく使いこなす力を

今、生成AIは、社会や日常生活の中で急速に定着しつつあります。学校では、個人情報の保護や情報の確かさを見極めるルールやモラルの指導を徹底した上で、子どもたちが未来を切り拓くスキルとして、生成AIを正しく、安全に使いこなす教育を行います。

保護者のみなさまへのお願い

〇学習用タブレットでの利用に関する同意

生成AIを活用した教育活動の趣旨をご理解いただき、同意書のご提出ください。

〇ご家庭での見守りと対話

このリーフレットを参考に、ご家庭でも日常の会話を通して生成AIを正しく、有効に使えているか温かく見守り、一緒に使い方を考える機会にしてください。

阿賀野市教育委員会

生成ＡＩってどんなもの？



みんなの学習をサポートする「アイデアの相談相手」

生成AIは、私たちが入力した質問やお願いに対して、文章や画像を作ったり、
アイデアを出したりしてくれる技術のことです。

使う前に知っておくべき３つのこと

使えるのは、指定された教育用AIだけ

使える生成AIは、市が貸与したアカウントでログインした次の３つです。
① Gemini　② Gemini Notebook　③ Canva（AI機能）
学校でも家庭でも、上記以外の生成AIの利用、個人アカウントでの利用は行いません。

「完璧なロボット」ではありません

生成AIは、人間のように体験したり、事実を一つひとつ確かめたりしているわけではないため、間違った情報をまるで本当のように答えることがあります。

責任は「自分」にあり、最後は「人との対話」が大切

生成AIには心や責任はありません。AIがくれるヒントをもとに、家族や先生、友達と話し合って自分の考えを深めることが何より大切です。

利用するときの「３つのルール」

【ルール１】

秘密や個人情報、他人の作品を入力しない！（個人情報、著作権の保護）

情報が外部に漏れる危険を防ぎ、みんなの権利と思いやりの気持ちを守るためです。

【ルール2】

出てきた答えを自分で確かめる！（ファクトチェック）

AIはとても自然な文章で間違った情報（ウソ）を伝えることがあるからです。

【ルール3】

丸写しせず、自分の頭で考える！

AIの答えを丸写しすると、自分で考える力や表現する力がつかなくなってしまうからです。

生成AIの「○と×」（場面ごとの活用例）

場面１：画像やデザイン作成



悪い例

好きなアニメや漫画のキャラクター画像を勝手にAIに読み込ませ、似た絵を作らせたり使ったりする



良い例

自分でデザイン案や下絵を考えた後、表現を広げるヒントをAIに相談し、最終的には自分の力で作品を仕上げる





場面２：調べ学習・自由研究

悪い例

AIが出してくれた回答を、本当かどうか調べずにそのまま発表スライドに貼る



良い例

まず教科書や図鑑などの信頼できる教材で調べ、さらに深めるヒントをAIに聞き、確かめてまとめる



場面３：作文や読書感想文

悪い例

「この本の感想文を800字で書いて」と入力し、AIが作った文章をそのまま提出する



良い例

まず自分の考えや感想を自分の言葉で書き、足りない視点やアイデアを得るためにAIを活用する



動画とWebサイトで学ぼう！

生成ＡＩと情報モラル

【学習用動画「情報モラル教育ポータルサイト」（文部科学省）】



全部正しいの？生成AIって

生成AIの仕組みと「ファクトチェック」について学びます。



そのつかいかた ほんとうに正しい？

夏休みの宿題を題材に、生成AIの正しい活用の仕方について学びます。



うっかり入力？個人情報を守るとは

生成AIの仕組みと個人情報・プライバシーについて学びます。



あなたが作るもの「著作権侵害」してない？

生成AIの回答には、他者の権利を侵害する情報もあることを学びます。



１つの情報で大丈夫？自分で考える情報選びとは

生成AIが作成した情報をそのまま応募・提出するリスクについて学びます。

【学習用コンテンツ「情報モラル学習サイト」（文部科学省）】

動画のあとは問題にチャレンジ！